

概要報告書

2018 年度

事業種別	県域安全事業
団体名	認定特定非営利活動法人 ひこばえ
事業名	DV等被害者のためのシェルター運営と自立に向けての支援
<p>DV(家庭内暴力)・虐待等で傷つけられた女性や子ども達が、今ある自分を大切にして、新たな人生を歩み出すための安全・安心の場を提供し、社会的自立に向けての総合的支援をおこなっている団体です。今年度の支援としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病を抱えている人達、脅えている人達もいるので、まずはそこで心ゆくまでゆっくりと過ごして貰い、安心感を持ってもらえるような配慮をし(一人にはしない、一人ではないことを伝え)、孤独にさせないようにしている。 2. 何か心配ごと、落ち着かないことがあれば、すぐに対応できるし、面接もできる。医療機関等への同行支援もできる体制を整えている。 3. 女性と子どもの心のケアのワークショップ「私の心のケア」を開催した。グリーフケアを専門にしている藤田尋美氏を講師に、子どもや母親の心理的な動き、今の自分の状態、そこにどう寄り添えるか、そして今後の健全な人とのふれあいにおいて何が必要かなど、ワークショップ形式で話合うことで、自分自身にやさしくすることができた講演会であった。42名の被害者や支援者の参加があった。 4. DVの被害者にも加害者にもならないために、DVの要因の一つでもある「ジェンダーバイアス」について、考える会を持った。群馬大学の教授でジェンダーバイアスの専門家齊藤周氏をお招きしての講演会「女も男も自己主張」と題して1人1人が自分の中にあるジェンダーを見つめることをした。 5. 毎年12月23日に、シェルターの母子を招いてのクリスマス会を催している。支援員たちがご馳走を手づくりし、プレゼントを用意して、ゲームを考え、母子達が一日を楽しく過ごして貰えるように工夫をこらした。 6. 「いかに被害者の方々の自立を支援していくか」について、県内の市町村の配偶者暴力相談支援センターや子ども課等職員と各市町村のハローワークの方々との情報交換会をもった。各市町村で現在行っている支援状況や困っている相談ケースやDVを受けたことによる精神的障害のために就職が困難なケースとか、発達障害を抱えているために公営住宅の人間関係には堪えられず、民間の住宅を探す場合にも、所持金もなく保証人もいない場合の家探しのケース等々についての有意義な話し合いが行われた。 	
	
藤田尋美氏の講演会「私の心のケア」	

注) 上記の報告書は、助成対象団体が作成した報告書です。(公財)日工組社会安全研究財団では、記載された事業の内容等に関するお問合せには対応できませんのでご了承ください。